

編集後記

今回の特集の取材を通して、身近でありながらも、今まで気づかず、大きな関心なく過ぎていた物事に目を向けることで、たくさんの事を知り視野を広げることができました。取材中「なんだ、そうだったのか!!」「なんで今まで知らなかったんだろう?」と思うようなことに何度も出会いましたし、また不思議な事に、知れば知るほど、興味の幅が広がっていきました。皆さんもこういう経験がきっとあると思います。どんなに些細なものでも、新たな発見が大きな興味へとつながったり、その発見を他の人に教えずにはいられなくなったこと。たとえば美味しいケーキを見つけたり、すばらしい映画に出会ったり、よい音楽を聞いたときなど。こういうことは結構身近な出来事として私たちのそばに存在しています。

何かを共有すること。これはそのものだけが共有されるのではなく、人と人との関係において、空間と時間と心が共有されることにもつながるのではないのでしょうか。今の時代、だんだん変な時代になってきています。子が親を、親が子を殺したり、相手に無関心であったり、何か人間らしいものが薄れているような気がします。まるで自分ひとりで生きているかのように、自己中心的に生きる人や、損得勘定でのみ行動する人、尊敬や献身や犠牲などをせずに、他人に目を向けない人。責任感というものと無縁の人々。

この雑誌は、その変化に挑戦する雑誌でありたいと思います。知識の共有から始まったものが、行動を伴った生きた知識・知恵となって、人々をつなげ、誰かのためになったり、何かの役に立つ第一歩になっていく雑誌に将来なれればと思っています。ここで扱うのは、情報や知識です。ですが、それらを共有することは、提供する人の心と献身と犠牲があり、読む人たちは情報と共にそれらも得ることになります。書物とは著者と読者が会話するものであるといわれますが、私たちは心の底から、そういう、読者と著者が出会い、1つになるものを目指しているのです。

その初めとして、皆さんに提案です。この雑誌をきっかけに、周りにある当たり前だと思っていたものに注目してみしてほしいと思います。例えば、普段何気なく歩いている道。でもちょっと目を向ければ色々な事に気づき、いつもとは違った道に見えてきたりします。それでいつの間にか普段の倍の時間をかけて歩いてしまうことがあるように、みなさんにも、たくさん寄り道をして、様々なことに関心を持って学んで欲しいと思っています。そして、その発見、関心を1人のものとして終わらせずに、自信をもってこの雑誌を使って発信してみしてほしいです。それは必ず自分を成長させる糧となり、また他の人の成長へとつながっていくはずです。

創刊のごあいさつでも触れていますが、plus i という名前は意味を持っています。しかし、さらなる意味があります。i というアルファベットから始まる単語はとてたくさんあります。つまり無限の広がり、可能性があるのです。この雑誌を読んで、みなさんが少しでも何か自分にプラスになるような事を発見することができたら幸いです。その小さな発見がみなさんの夢やビジョンに無限の広がりを与える一歩となるかもしれません。

plus i 編集スタッフ大募集

「plus i」では編集スタッフを募集しています。雑誌制作に興味のある方、出版業界に興味のある方、記者にあこがれている方は必見です。初心者でもOK!

神奈川大学横浜キャンパスの学生なら誰でも参加できます。

詳しいことは plus_i@hotmail.co.jp へお問い合わせください。

2004年度 plus i 編集部スタッフ

山田敦史	経済学部	経済学科
細谷晴香	外国語学部	英語英文学科
三橋康弘	経済学部	貿易学科
今井謙一郎	法学部	法律学科

plus i vol.1

発行 / 2005年5月1日

編集・発行者 / 神奈川大学人文学会

学生会 plus i 編集部

横浜市神奈川区六角橋3-27-1

制作協力 / (株)図書出版

東京都千代田区三崎町3-7-4